

「地理空間」執筆要綱

(2013年6月29日改訂)

1. 原稿の作成

本文等では、A4版白紙片面を縦に用いて上下25mm、左右50mm程度の余白を取り、文字サイズは11pt程度とし、22字×36行で印刷する。

2. 原稿の順番

① 表題，著者名，所属機関・部局 ② 和文摘要・英文要旨，キーワード ③ 本文（注，文献，付録含む） ④ 図表キャプション ⑤ 表 ⑥ 図 の順に並べ，和文摘要から本文末尾まで通しページを付ける。

3. 論文表題・論文著者等の記述

和文表題，論文著者，所属機関・部署名，キーワード5個程度と，同英文表記を以上の順序で表記する。著者名および所属は以下のように表記する。

【記述例】

空間太郎*・地図花代**・地理 —***・環境次郎***

*空間大学文学部，**地理大学大学院地球環境学研究科

空間大学大学院生，*日本学術振興会特別研究員DC，地理大学

4. 和文摘要・英文要旨

和文の摘要は400字以内で記述する。英文要旨は500語以内とし，上下左右の余白を十分に取って20～25行で印刷する。

5. 本文(図表，注などにも適用)

①章・節・項のスタイル

章はI，II，……，節は1，2，……，項は1)，2) ……とする。本文中では，「IIでは」，「IIIの2において」のように表記する。

②数字の使い分け

本文中および図表番号に用いる数字は，すべて半角数字とする。また，固有名詞や，和語の数詞（一つ，二つ）などの例外を除いて，算用数字を用いる。

例) 第1に 図2 3名ずつ 4国…

例外) 一つ 第一次産業 第二次世界大戦 三国同盟 二重構造 ～の一種 一番上…

③年号・記号

年号は基本的に西暦を用いる。ただし，第二次世界大戦以前は対応する年号を併記してもよい。例) 1880(明治13)年

記号は，％，℃，㎥などのように，一般的な記号がある場合にはそれらを用いる。

④句読点

本文・注では，句点は「。」，読点は「，」とする。図表，注・文献表では，句点を「.」とする。

⑤文献の引用

「伊藤（1993）では，「町田・新井（1983）によると」，「Ilbery and Kneafsey（2000）は」，「...である（町田・新井，1983）。」，「...（伊藤，1993；Ilbery and Kneafsey，2000）。」

「末吉（1989，1991）は」，「...である（マッカン，2008：67-73）」，「...という指摘もある（Johnston et. al. 1994：136-138）。」，「村山ほか（1997）は，」のように表記する。

著者が3人以上の場合は，筆頭著者の姓の後に「ほか」もしくは「et. al.」を付す。

⑥その他

- ・「～カ所」と表記する場合は，「カ」はカタカナの大文字で表記する。
- ・平仮名で「ひとり」と表記する場合は，「独り」を意味する場合に用いる。
- ・次男および次女は用いず，「二男」，「二女」と表記する。

6. 注

注は，本文の記述を簡潔にしたために，本文を補足する必要がある場合に限り用いることができる。注記は，本文中の当該箇所の右肩に右片括弧付きで通し番号を付し，本文（付記）の後に，まとめて記述する。

7. 図表

表は表 1，表 2，……，図は図 1，図 2，……，とする。写真は図に含める。一つの図表が複数の部分に分かれる場合は，a，b...を付し，本文では図 1-a のように言及する。

完成した冊子は B5 版，2 段組となるため，図表のサイズについては，片段のものは 7cm 以下，両段のものは 14cm 以下になるように作成する。写真製版を必要とする場合は，図表欄外に縮小率を記入する。

8. 付記

[謝辞]や[追記]は，[付記]に統一し，左詰とする。

9. 文献表と文献引用

文献は注とは別記し，参考文献としてまとめる。文献の書式は以下のようにする。

① 和文論文

著者名（発行年）：論文タイトル．掲載誌名（原則として略さない），巻数（巻数はボールド），ページ．

② 和文単行本

著者名(発行年): 単行本名. 出版社名.

③ 欧文論文

著者名 (発行年): 論文名. 掲載誌名(イタリック, 多少の略称は可. 原則として Journal は J.), 巻数(巻数はボールド), ページ.

④ 欧文単行本

著者名 (発行年): 単行本名(イタリック). 出版社名.

⑤ 巻号のある雑誌で巻ごとに通しページのある場合は号数を省略する。号数のみのものは、巻数に準ずる(地学雑誌, 115, 262-278.)。巻号のある雑誌で号ごとにのみ通しページのある場合は巻号を記述する。

⑥ 文献は、日本語文献、中国語文献、韓国(朝鮮)語文献、欧語文献の順に並べる。

⑦ 同一著者の文献は、発表年順にまとめる。同じ発表年のものが複数ある場合は、引用順に a, b, ...を付して並べる。

⑧ 類似した雑誌名が複数あって紛らわしい場合、必要に応じて発行地もしくは発行機関名を括弧書きで付す。

【記述例】

文 献

- ウーズ, R. 著, 川邊 宏・小笠原節夫・高橋眞一共訳(1983): 地域人口分析法—地理学と人口学の接点—. 古今書院. Woods, R. (1978): *Population Analysis in Geography*. Longman.
- 小田宏信 (2005):『現代日本の機械工業集積—ME 技術革新期・グローバル化期における空間動態—』古今書院.
- グローツ, R. 著, 小田宏信訳 (1997): 中小企業のネットワーク化と競争力の強化—南西ドイツにおける事例研究—. 竹内淳彦編『企業行動と環境変化』222-241, 大明堂.
- 田林 明 (1994): 黒部川扇状地におけるチューリップ球根栽培の分布変化. 地理学評論, **67A**, 437-460.
- 手塚 章編 (1991):『地理学の古典』古今書院. (監修の場合は「編」を「監修」に置換.)
- 戸谷 洋・町田 洋・内藤博夫・堀 信行 (1971): 日本における扇状地の分布. 矢沢大二・戸谷 洋・貝塚爽平編:『扇状地—地域特性』古今書院, 97-120.
- 友澤和夫 (1989a): 周辺地域における工業進出とその労働力構造—中・南九州を事例として—. 地理学評論, **62A**, 289-310.
- 友澤和夫 (1989b): わが国周辺地域における「非自立的産業」の展開と地域労働市場の構造—熊本県天草地方を事例として—. 経済地理学年報, **35**, 201-220.
- 仁平尊明・コジマ, A. (2007): ブラジル・南パンタナールにおけるエコツーリズムの発展. 丸山浩明編『ブラジル・パンタナールにおける熱帯性湿原の包括的環境保全戦略』(平成16年度～平成18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書) 139-157, 立教大

学文学部.

- 宮澤 仁・阿部 隆 (2005): 1990 年代後半の東京都心部における人口回復と住民構成の変化. *地理学評論*, **78**, 893-912.
- 村山祐司・高橋伸夫・桜井明久・手塚 明・菊池俊夫・松村公明 (1997): パリ市における居住空間の特質. *人文地理学研究* (筑波大学地球科学系), **XXI**, 1-37.
- 南 榮佑 (1988): 『都市と国土』法文社. (韓国語)
- Bowler, I.R., Bryant, C.R. and Cockilin, C. (2002): *The Sustainability of Rural Systems*. Kluwer Academic Publisher.
- Bowling, S. (1990): Alaska temperature and their re-lationship with the Pacific decadal oscillation (PDF). http://www.brighton73.freeseerve.co.uk/gw/alaska_pdo.htm [Cited 2006/12/22].
- Christaller, W. (1933): *Die zentralen Orte in Süddeutschland*. Fischer. Translated by C. W. Baskin (1966): *Central places in Southern Germany*. Prentice-Hall.
- Feldman, M.P. and Florida, R. (1994): The Geographic Source of Innovation: Technological Infrastructure and Product Innovation in the United States. *Annals of the Association of American Geographers*, **84**, 210-229.
- Grotz, R. and Braun, B. (1993): Networks, Milieux and individual firm strategies: Empirical evidence of an innovative SME environment. *Geografiska Annaler*, **75B**, 149-163.
- Kostiainen, J. (2002): Learning and the 'Ba' in the Development Network of an Urban Region. *European Planning Studies*, **10**, 613-631.
- Nonaka, I. (1991): The Knowledge-Creating Company. *Harvard Business Review*, **69**(6), 96-104.
- Smith, D. (1979): *Where the grass is greener: Living in an unequal world*. Penguin Books. スミス, D. M. 著, 竹内啓一監訳 (1985): 『不平等の地理学—みどりこきはいずこ』古今書院.